

北広島市地震ハザードマップ

地域の危険度マップ

地域の危険度マップは、「揺れやすさマップ」で示した強さの揺れとなった場合に、建物に被害が生じる程度を「危険度」として表したものです。「危険度」は、地震時に全壊する建物の割合を表示したものです。

なお、危険度マップは、地震による個々の建物の危険度を表したのではなく、各地域の建物被害を相対的に表示したものです。






危険度の区分

危険度は、建物の構造(木造・非木造)や建築年次により区分し、地域(町丁目)ごとに建物の全壊する割合(建物全壊率)を算出したものです。震度が同一の場合では、古い建物や木造の建物が多い地域ほど、建物全壊率が高くなります。

危険度	建物全壊率
1	0 ~ 1%
2	1 ~ 2%
3	2 ~ 4%
4	4 ~ 6%

(平成20年1月1日現在)

地震発生時の行動のポイント

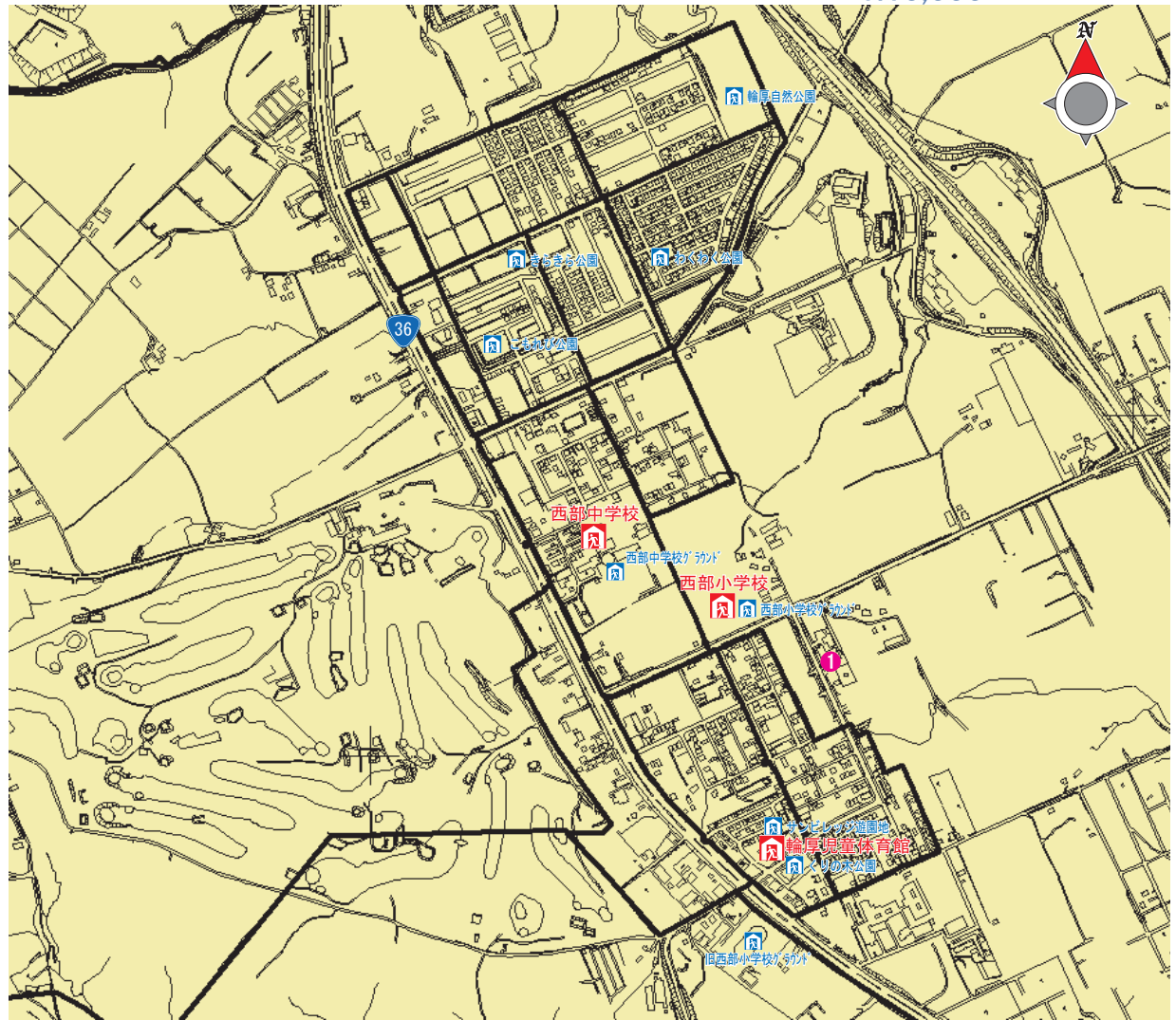
経過時間	ポイント
緊急地震速報 又は 地震発生	最初の大きな揺れから身を守る <ul style="list-style-type: none"> ●まず、身を守る 机の下などへ。あわてて外へ飛び出さない。 ●すばやく火を消す 危険が伴うので無理はしない。 ●脱出口を確保する ドア、窓を開ける。家がゆがむと開かなくなることがある。 
	揺れがおさまったら まず火の始末 <ul style="list-style-type: none"> ●火元を確認する 火が出たら落ち着いて初期消火。 ●家族の安全を確認する 倒れた家具の下敷きなどでケガをしていないか。 ●靴をはく 室内に散乱したガラスの破片などから足を守る。 ※がけ崩れのおそれがある地域は必ず避難 
発生 1~2分	隣近所の安全確認 火災の発生を防ぐ <ul style="list-style-type: none"> ●隣近所に声をかける けが人・行方不明者の確認、救出・救護。 ●近所に火が出ていたら初期消火 大声で知らせる。 消火器を使う。 バケツリレーをする。 (普段から、風呂に水をためておく) ●余震に注意 
	ラジオなどで正しい情報を入力 <ul style="list-style-type: none"> ●正しい情報をつかむ ラジオや市役所、自主防災組織の情報を聞く。 ●電話はなるべく使わない 緊急連絡電話が優先。安否確認は「災害用伝言ダイヤル171」で。 ●家屋倒壊などの危険があれば避難 避難をするときはガス栓をしめ、ブレーカーを落とす。 
発生 3分	協力して消火 救出・援護活動 <ul style="list-style-type: none"> ●助け合いの心が大切 力を合わせて消火活動、救出・救助活動 ●水・食糧は蓄えているものでまかなう 3日分の飲料水と食糧を備蓄しておく ●壊れた家には入らない 無理をして、二次災害を起すことはいけない。 ●災害情報・被害情報の収集 引き続き余震に注意 
発生 10分	
発生 数時間	
発生 3日くらい	

凡例

- 収容避難所
- 一時避難場所
- 病院・医療機関

地域の危険度マップ：輪厚地区

1:10,000



危険度マップ表示位置図



収容避難所一覧(輪厚地区)

名称	所在地	電話番号
西部小学校	輪厚508-3	376-2104
西部中学校	輪厚中央1丁目12	376-2252
輪厚児童体育館	輪厚中央4丁目12-19	376-3380

医療施設一覧(輪厚地区)

番号	医療機関名	所在地	電話番号
①	輪厚三愛病院	輪厚704-16	377-3911

耐震診断について

地震が発生した場合、建物が倒壊する割合は、古い建物ほど高くなりますが、特に木造住宅では高い傾向にあります。

昭和56年5月以前の建築基準法、いわゆる旧耐震基準で建てられた住宅は、耐震性が低い可能性がありますので、専門家による耐震診断を行うことをお勧めします。

北広島市では、旧耐震基準の一戸建て木造住宅を対象に、耐震診断を平成20年度から、耐震改修は平成21年度から費用の一部に対して助成を行います。

